

あんな時代、こんな時代...

入浴料金の移り変わり

| | |
|-------|----------------|
| 1951年 | (8円) 10円 |
| 1958年 | 8セント |
| 1961年 | 10セント |
| 1966年 | 13セント |
| 1970年 | 15セント |
| 1972年 | 54円 |
| 1974年 | 90円 |
| 1976年 | 110円 |
| 1978年 | 140円 |
| 1980年 | 200円 |
| 1998年 | 18年間も 料金は据置 |

私たちが生活の中から銭湯が遠ざかっていたのは、いつ頃からだろう。時代とともに住宅事情がよくなり、どの家にも風呂があり、いつでも気軽に入れるようになり足が遠のいていった。

銭湯の煙突もいつの間にかビル影に隠れ、ほとんど消えていった。昭和三十年代には県内に三百十一軒もあった銭湯も、現在は十五〜六軒にまでなっている。

那覇市内では現在、四軒の銭湯が頑張っている。

経営も苦しく、十数年間入浴料金は据え置き、経営者の高齢化と後継者の問題もある。

今は、常連客の支持で営業を続けている状況だ。

今日は、むかしを懐かしんで近くの銭湯に行ってみてはどうですか。



“日の出湯” 二中前（泉崎2丁目）



“壺川湯”（楚辺2丁目）



“若葉湯”（首里赤平町）



“旭湯”（樋川1丁目）与儀市場入口



水道局略図

編集便り

今回は、市内に何軒の風呂屋が営業しているだろうか？とやう疑問から“銭湯”大衆風呂屋探訪を企画しました。

市内のどこに銭湯が残っているのか、どの様な方々が利用しているのか。と古を追いながら、やっと見つけた営業中の4軒。次号では、銭湯の今昔、経営者の声、エピソード等を掲載したいと思います。

こうご期待！

